

来春高志中入試 集団面接を導入

作文問題取りやめ

県教委は31日、高志中の入学者選抜について、来春から作文問題を取りやめ、集団面接に変更すると発表した。面接官の質問に児童が順に答えるなどのスタイルを想定しており、対面での会話を通して一人一人の主体性やコミュニケーション能力をみる。具体的な評価方法や配点は未定。9月公表予定の募集要項で詳細を知らせる。

同校はこれまで、国語と算数、理科・社会に相当する3種類の適性検査(各100点満点)のほか、当日与えられたテーマで自分の考えを600字程度でまとめる作文(50点満点)を実施していた。適性検査は文章での答えを求め、問題が多く「書く力を測ることができない」として、面接に切り替えた。

県高校教育課の担当者は、同校では自分の意見を論理的に伝える力やコミュニケーション能力を育てる教育を進めているとし「自分の考えを自分の言葉で発言することを心掛けてほしい」としている。面接時間は15分程度の予定。

高志中の今春の募集定員は90人で、327人が受験し、定員に対する倍率は3・63倍だった。(栗原愛)